第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | 環境配慮型コンクリート（材料）

環境配慮型コンクリート（材料）3

座長:金子樹(土木),栗原遼大(建築)
2024年6月27日(木) 10:50 ～ 12:15 第2会場 (小展示室B)

[1229]ポルトランドセメントを使用しないコンクリートにおける鉄筋腐食性状に関する基礎的検討

小宮克仁[1], 臺哲義[1], 佐々木亘[1], 松田拓[1] (1.三井住友建設)

キーワード：自然電位、塩化物イオン濃度、低pH環境、chloride ion concentration、low ph environment、no portland cement、ポルトランドセメント不使用 half-cell potential

本検討ではポルトランドセメントを使用しない配(調)合（ STC）を対象として鉄筋腐食性状の検討を行った。具体的には，材齢28日での20℃水中養生供試体強度が同程度となる，普通ポルトランドセメントのみを結合材としたコンクリート（ NC）と STCについて，鉄筋腐食促進試験により鉄筋腐食性状を比較した。その結果， NCでは鉄筋の腐食が進行し， STCでは腐食が進行しなかった。この理由として， STCの組織は NCよりも緻密であるため，低 pH環境にあっても塩化物イオンをはじめとする腐食因子が浸透せず，鉄筋の腐食が進行しないことが確認された。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会